

# 中学校美術科における鑑賞教育(3)

——中学生の絵画鑑賞に関する調査——

鹿 取 武 司\*

## A Study of Artistic Appreciation in a Junior High School Art Class(3)

——A Survey on How Students Evaluate 12 Pictures——

Takeshi Katori

### I 序

表現と鑑賞の両活動は、美との出会い—創作—作品という図式で示される美術活動を逆に迎える形で捉えられるが、共に主体的な創造的行為であると認識されている。学習指導要領<sup>1)</sup>において、両者は美術活動を担う表裏一体の関係として、互いに補足し合う指導の上に目標の達成が掲げられている。にもかかわらず、鑑賞教育における指導の低迷は、その研究の積み重ねの乏しさと共に指摘されてからすでに久しい。

筆者は絵画作品を鑑賞の対象と定め、絵画鑑賞に関する問題の考察を続けて来た。絵画鑑賞の問題は、鑑賞される作品に関して、鑑賞活動とに大別されるが、相互の密接な関連の上に統合的な立場で、1) 鑑賞のプロセス、2) 鑑賞者の性格と鑑賞作品の表現形態の関連などの問題に考察を加えて来た。前者については本学研究紀要第14集に、後者は同第16集においてすでに報告をしている。残された問題として鑑賞活動の構造の解明と中学生を対象とした実態調査があるが、今回都内中学校において調査を行う

機会を得た。今までの研究の上に鑑賞活動の一側面を明らかにする調査結果を得たのでここに報告する。

### II 調査の方法

中学生を対象とした調査を実施するにあたり、次の事項に留意して調査方法を決定した。

○何物にもとらわれない自由な鑑賞活動の実態を調査する。

○鑑賞時の卒直な気持をできるだけ細かく収集する。

○中学生の発達、性格の差異と広がりを考慮し、無理しない形で実施する。

#### 1. 調査期日

昭和60年11月～12月

#### 2. 調査対象

都内公立中学校生徒 1, 2 年生 440人  
(男220, 女220) (表1)

#### 3. 鑑賞作品

作品の選定にあたっては、中学校美術科教科書に取扱われている作家の作品から、表現形態や主題などに片寄りがないように配慮して、6点1組の作品を2組選んだ。(表2) (図1) 実際の調査では約40×60 cm の大きさの作品図版

\* 本学講師 美術科教育法・教育実習

を使用した。

#### 4. 実施方法

所定の調査用紙(表3)を配布し、作品図版を被験者全員がよく見える位置(実際は黒板上)に設置し、各作品5分間ずつ連続して6点を鑑賞させた。この間は一切の説明はなく、質問も受けぬ形をとった。被験者は1作品を鑑賞する間にその印象、感想、批判、連想など何でも書きたいことを自由に記述し、同時に作品に対する好悪の気持を5段階で自己評定した。

(回収率100%)

### Ⅲ 調査結果と考察

得られた資料は自由に印象を書き綴った膨大な文章群である。1人の記述内容は量的に個人差がかなりあるが、最低数語のものから百数十の単語からなる文節に及ぶものもある。この文

章群を基本資料として、好悪の5段階評定と合わせると、鑑賞活動における実態のいくつかの側面を明らかにできるとと思われる。

記述内容の総体は極めて多様であるが、大きく分類すると、

- 1) 美的要素に注目した記述
- 2) 感動の用語のみを記述
- 3) 単なる好悪の気持の記述
- 4) 作品からはなれた個人的連想

に分けることができる。

このうち1)の作品に対する印象、心情などを作品の美的要素との関連で記述した箇所が資料として重要であり、2)や3)の単なる感動の用語のみ、あるいは好きか嫌いを書いただけのものは集計作業から除いた。4)の個人的連想については、作品の印象、内容から全く離れたことを記述した場合は取り上げていない。

彼らの記述内容の中には、用語や単語の誤っ

表1 調査日時及調査対象一覧

中学校名	調査月日	時間	学年・組	人数		合計人数	作品グループ
				男	女		
多摩市立和田中学	11月19日	10:00~10:30	1年A組	21	22	43	A
〃	11月19日	11:00~11:30	2年F組	20	16	36	A
〃	11月20日	10:00~10:30	1年D組	22	21	43	A
〃	11月20日	11:00~11:30	2年C組	18	18	36	A
江戸川区立葛西第二中学	11月26日	9:00~9:30	2年4組	20	17	37	A
江東区立砂町中学	12月10日	9:00~9:30	1年1組	20	22	42	A
〃	12月10日	11:00~11:30	1年2組	20	21	41	B
〃	12月11日	9:00~9:30	1年3組	20	20	40	B
〃	12月13日	9:00~9:30	1年7組	18	21	39	A
〃	12月14日	9:00~9:30	2年1組	21	20	41	B
〃	12月14日	11:00~11:30	1年5組	20	22	42	B

表2 鑑賞作品一覧

Aグループ			Bグループ		
	作家名	作品題名		作家名	作品題名
1	H・ホルバイン	エラスムスの肖像	1	F・ハルス	ボヘミアンの女
2	C・ピサロ	ルーアンの石橋	2	G・クールベ	嵐の後のエトレタットの崖
3	A・マチス	なすのある室内	3	V・ゴッホ	ひまわり
4	L・フジタ	カフェにて	4	M・キスリング	ショールの女
5	W・カンデンスキー	インディアン物語	5	J・ミロ	太陽の下の人と犬
6	F・レジェ	ルイ・ダビット礼賛(余暇)	6	P・セザンヌ	りんごとオレンジ

表3 調査用紙

中学校美術絵画鑑賞				組 番 氏名
立 中学校	年	男 女		
調査年月日	昭和 年 月 日	時限		
○絵を見て感じたままを自由に記入する (できるだけくわしく書く)				
1	好き やや 中間 やや きらい	5 4 3 2 1		
2	好き やや 中間 やや きらい	5 4 3 2 1		

た使用や不適切な使用と明らかに判断されるものも見られたが、それらは極めて少なく、実質的には無視してさしつかえない割合と考えられた。またこの調査は授業時間内に鑑賞の授業の一環として行なわれたので、ふざけた態度で臨んだ者も皆無であった。

### 1. 記述内容の分類

彼らの記述した内容の総体から、美的要素に関する次の項目が抽出された。

- a) 色彩に関して
- b) 表現方法及表現効果に関して
- e) 写実性について
- d) 雰囲気、情緒について
- e) 構図、構成について
- f) 主題、題材、モチーフについて
- g) 遠近感、平面性など空間的な事項
- h) その他（個人的連想）

a) 色彩に関する分類項目は、配色、色の実名、色彩効果など色に注目し記述された一切を含む。また画面の明るさ、鮮やかさなどについて記述した場合で、明らかに色彩から来る印象として書かれているものは、この項目に分類した。色彩についての記述は評価観と合わせて書かれる場合が多く、色がきれいな、配色が美しい、と肯定的評価と、他方色がきたない、組み合わせが悪いなどの否定的評価の両面がある。

b) 表現方法及表現効果に分類される内容は、描き方、描画態度、絵の密度、技法、技巧、タッチ、筆勢などに関連した指摘、記述である。また画面効果に関する印象（単純、大胆、豊か、動勢）やいわゆる“色”に対しての“形”に関して書かれたものなど、表現にかか

わる総合的な項目として扱った。

c) 写実性は彼らの記述の中で、特に本物みたい、そっくり、写真みたいなどと写実的表現に対する関心の高さが見られたのでこの項目を設けた。

d) 雰囲気、情緒の項目は、作品の印象を感情面、情緒面で捉えて語っている場合、例えば感じがいい、寂しい、生き生きしている、暖かそう、気持ち悪い、静か、楽しい、面白い、素朴だ、などをこの項目に含めた。

e) 構図、構成に関しては、画面構成の善し悪し、部分や全体のバランスに関する指摘、画面のまとまり、視点、対比の問題などの記述がこの項目に含まれる。

f) 作品のテーマ、主たるモチーフに関する記述では、何が描かれているか、作者のねらいなどに注目した内容をここに分類した。

g) 画面の空間性に注目した記述、遠近法、奥行き感など、あまり多くないが鋭い指摘もあるのでこの項目を設けた。

h) その他は上記分類に属さない内容や独自の見解、連想、思い出、体験、発想の展開に関する記述をここへ含めた。

### 2. 5段階評定の集計

作品ごとに大好き～大嫌いの気持を5段階（大好き—5、やや好き—4、好きでも嫌いでもない—3、やや嫌い—2、大嫌い—1）の程度で評定する作業は容易に行えたようである。先に報告<sup>2)</sup>した通り、作品に対する好悪の判断は、じっくり考えるよりむしろ第一印象の方が、美的価値感情がより鮮明に反映されて適確であると言える。

作品ごとの5段階評定の集計値をグラフ化し

表4 記述内容項目別出現数

C・ピサロ

	5	4	3	2	1	合計
主 題	3	7	2	2	1	15
表現方法	26	72	35	20	7	160
色 彩	12	18	11	5		46
構成・構図	8	9	4	2		23
雰 囲 気	59	73	33	20		185
遠 近	5	5	3			13
写 実 性	19	16	4			39
そ の 他	4	5	6	1	1	17

A・マチス

	5	4	3	2	1	合計
主 題	5	10	25	23	39	102
表現方法	14	14	34	34	37	133
色 彩	8	20	23	38	29	118
構成・構図	2	10	5	6	4	27
雰 囲 気	16	19	36	24	17	112
遠 近		1	4	3	6	14
写 実 性				2	10	12
明 暗	4	4	10	6		24
そ の 他	3	2	7	7	6	25

G・クールベ

	5	4	3	2	1	合計
主 題	7	2		1	1	11
表現方法	99	25	12	9	5	150
色 彩	9	3	1	2	1	16
構成・構図	9	4			1	14
雰 囲 気	69	29	7	5	2	112
写 実 性	44	15	6	1		66
そ の 他	14	3	2			19

V・ゴッホ

	5	4	3	2	1	合計
主 題				2	8	10
表現方法	3	14	30	35	32	114
色 彩	1	8	40	29	27	105
構成・構図	3	1	3	2	9	18
雰 囲 気	2	5	15	11	20	53
写 実 性			4		7	11
そ の 他	1	4	2	5	12	24

たものが図2である。グラフで明らかのようにA、B両グループで次の4作品が特に注目される結果となった。Aグループのピサロとマチス、Bグループのクールベとゴッホである。この4点はその数値の示す通り、今回の調査ではそれぞれ6作品中で、好悪の評定差が明確に現れた作品である。4作品の集計値を見てゆくと、ピサロの風景画は圧倒的に人気が高く、5段階の評定は好きから嫌いに向け段階的に数値が低くなっている。大好きが全体の42%、大好きとやや好きを合わせると73%以上を占めている。これに対し、大嫌いには1.8%である。いかにこの作品が彼らに好感を持って受け入れられたかがわかる。

クールベの風景画では、大好き～大嫌いの差はピサロ以上となった。好意を持ち受け入れた者（5と4の評定者）は82%以上、嫌いとした者（2と1）は10%以下である。

この2作品とは対照的にマチスとゴッホは、やや嫌い、大嫌いを合わせるとそれぞれ54.7%、58.5%と半数以上が受け入れたくないという解答をしている。

### 3. 4作品の記述内容

記述された全文の内容を先に抽出された項目(a～h)ごとに分類し、5段階の好悪の評定に合わせ集計したものが表4である。記述内容の数え方は、例えば色彩に関して書かれている単語あるいは文章があれば、色彩1と数え、美

的要素との関連で書かれたことは全ていずれかの項目に分類した。この集計値は彼らが絵のどこに、あるいはどのような側面に注目したかの特徴を表わしている。

調査用紙に記述された彼らの言葉を、各作品ごとに好悪の5段階に分け、一覧にしたものが表5である。抽出された用語や文は、出現度の高いものを代表として掲載しており、表4の項目別出現数とは必ずしも一致していない。

### 4. 5段階評定の集計値と記述内容

表の4と5を読み合わせるにより、4作品に対する詳細な彼らの受け止め方と作品評価の要因を探ることができる。

Aグループの中で一番人気の高いピサロの作品について、記述内容を見ると最も多いのが作品の雰囲気に関する事項であり、次いで表現方法となっている。この両項目が70%を占めている。これは彼らが風景画の持つ雰囲気や描き方に、最も興味を示していることをはっきりと表している。色彩や写実性、構図などの美的要素についての記述は、それぞれ数%であり、比較すると一層明確に雰囲気などへの注目の強さがわかる。

これに彼らの書いた文章を対照すると、感じがいい、素朴、静か、のどか、落ち付いた感じなどの雰囲気や情緒に関する記述が圧倒的に多い。表現方法に関しては、川や空の描き方がうまい、感じがよく出ている、といわゆる写実主

義的描写に対し強く共感を抱いているようである。また大好きから大嫌いまでの好悪の程度差に沿って記述を見ると、同じ雰囲気に関しても変化が読み取れる。5と評定した者では、とても生き生きしている、活気に満ちている、と受け取られている印象が、2の者では活気がない、さみしい、冷たい感じとなっている。他にもバランスがとれているが2ではアンバランスとなり、描写については、5ではみごとである、3ではきれいだけどあまり印象に残らない、1では何も感じない、誰でもかきそうな絵、となっている。ただし2や1とした生徒も描写がへたとは誰も書いていない。

マチスの作品について記述内容を見ると、表現方法、色彩、雰囲気、主題の4項目の内容がそれぞれ20%前後を占めているのが特徴である。マチスはピサロとは逆にAグループの中で最も嫌われた作品であるが、記述内容においてピサロとの大きな違いは、色彩と主題についての記述がそれぞれ2.2倍、5.9倍も増えている点である。つまり作品を受け入れにくい理由には色彩や主題が関与していると考えられる。実際彼らの記述の中には、表現方法や色彩についての内容が作品の評価観と合わせて多く書かれている。例えば色が濃すぎるので好きになれない、配色が大胆すぎて落ち付かない、ものの形が不明瞭でわかりにくいからきらいだ、などが多く見られる。雰囲気や主題に関する記述も同様であるが、マチスの場合主題の不明瞭さ、すなわち何が描かれているかわからない、あるいはわかりにくい、ということが受け入れにくい要素となっている。色彩に関する記述を5段階評定の5から1への変化の中で見ると、5.色のバランスがとれていていいと思う、色が美しい。4.色合いがいい、色の使い方もうまいと思う。3.色の使い方が大胆、もっと明るい色を使えばいい。2.色が濃い、きたない色。1.色の差が大胆すぎる、配色が悪い。となり色彩にかかわる評価が好悪の程度により悪くなっていくのがわかる。

主題不明に関して、5.の生徒は、何がかい

てあるのかわからないところがいい、意味がわからなくても楽しい、と書いており受け止め方が大多数の者とは正反対である。3.の生徒の中に、意味がわからないので好きとも嫌いとも言えない、という記述があり主題の理解が評定に関与していることがわかる。

Bグループのクールベとゴッホの両作品に対する記述についても、ピサロ、マチスと同様のことが言える。

クールベの風景画については、約85%が表現方法、雰囲気、写実性に関する記述である。細かくてリアルだ、描写がすばらしい、静かで広々として感じがいい、素朴でさわやか、と言い同時にこの作品を高く評価している。逆にこの作品を大嫌いとした者は、わずか3%であるが、クールベの風景画が平凡な感じであり、気味が悪い雰囲気である、あるいはこわい感じがすると書いている。

ゴッホの有名なひまわりの絵については、大好き、やや好きと答えた生徒が約10%で、残り90%は、何とも感じない、やや嫌い、大嫌いという割合であった。嫌いな理由は表現方法、色彩、雰囲気に結び付けて書かれていて、この3項目の記述が約85%を占めている。色が濃すぎる(明度はさほど高くなく彩度が高い色)、同系列の色ばかり使っている。組み合わせがきたない、と色彩に対する批判が多い。描写法についても、かきかたがうまいとは思わない、全体に雑である、細かくない、と言い雰囲気については、明るいけど楽しくない、重い、さみしい、気味が悪い、などの記述が多く見られた。他方ゴッホの絵を大好きと答えた者(2.4%)は、大胆で鮮やかで心が動かされる様な感じ、とても明るい感じがした、ひまわりの描き分け方がとてもうまい、と書いている。この様に、前者3作品についても、ごく少数とは言え大多数の者達と正反対の受け止め方をする生徒がいることは、鑑賞指導を考える上で無視できないことである。

4作品の集計結果から彼らの評価をまとめると、ピサロの風景画を良いとする理由は、作品

表5 4作品の記述内容

〈書かれた文章のままを掲載〉  
●太丸は特に記述の多いもの

C・ピサロ

5	4	3	2	1
<ul style="list-style-type: none"> <li>●明るくて感じがいい</li> <li>・朝の町のようなすが出ている</li> <li>●素朴な感じ</li> <li>●静かな感じ</li> <li>●のどかな感じ</li> <li>●落ち付いた感じ</li> <li>●細かく美しい</li> <li>・川や山の描き方がうまい</li> <li>・空や川の感じがよくでている</li> <li>・水面のようすがよくわかる</li> <li>・とても生々している</li> <li>・活気に満ちている</li> <li>・さわやかさを感じる</li> <li>・リアルだ</li> <li>・とても美しい</li> <li>・バランスがとれている</li> <li>・風景が大好き</li> <li>・みごとである</li> <li>・いろいろな様子を表わしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵をかいた場所がいい</li> <li>・細かくていい</li> <li>・素朴な感じがする</li> <li>・細かいところまでよく見ている</li> <li>・かたい感じがする</li> <li>・少し冷たいような感じがする</li> <li>・山の表現がはっきりしている</li> <li>・川の色がきれい</li> <li>・水の色が純粹だ</li> <li>・明の感じがする</li> <li>・静かな感じがする</li> <li>・落ち付いている</li> <li>・少し重い感じがする</li> <li>・やさしいやわらかい感じ</li> <li>・さびしい感じ</li> <li>・川にうつっているものや遠くの家が本物みたい</li> <li>・水のうつりがとてもきれいだ</li> <li>・平和な感じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空の色がまっさおでないのかなんか冷たく感じる</li> <li>・空の白が暗くていやだ</li> <li>・まわりの家々にもう少し明るみがほしかった</li> <li>・細かくてきれい</li> <li>・きれいだけどあまり印象に残る絵ではない</li> <li>・とても静かな感じ</li> <li>・でもよくも悪くもない</li> <li>・きれいだけどさみしい感じがする</li> <li>・川の流れの感じがすき</li> <li>・ちょっと色がくらい</li> <li>・色の使い方がさびしいような気がする</li> <li>・色の使い方がきたない</li> <li>・こういう場所はあまり好きにならない</li> <li>・少し貧しい感じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷たい感じがする</li> <li>・さみしい絵</li> <li>・活気がない</li> <li>・どんよりして重い感じがする</li> <li>・暗い感じがする</li> <li>・ありふれている</li> <li>・水が冷たそう</li> <li>・もっと青空のほうがいい</li> <li>・全体にボケててもはつきりさせたい方がいい</li> <li>・空の色がなんとなく不気味</li> <li>・色もくすんでいるような感じ</li> <li>・色合いが好きではない</li> <li>・全体が暗すぎると思う</li> <li>・川の手前の家々がアンバランスのような感じ</li> <li>・場所がきにくくない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真でとったものを見ている感じ</li> <li>・普通すぎではつきりしない</li> <li>・だれでもかきそうな絵だから</li> <li>・かたい感じがする</li> <li>・にごっている感じがする</li> <li>・何も感じない</li> </ul>

A・マチス

5	4	3	2	1
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大胆な感じ、装飾的な感じ</li> <li>・はででおもしろく明るい</li> <li>・表現が楽しい</li> <li>・色のバランスがとれていていいと思う</li> <li>・色が美しい</li> <li>・楽しくておもしろい</li> <li>・幻想的な感じ</li> <li>・何かかいてあるかわからないところがいい</li> <li>・意味がわからなくても楽しい</li> <li>・ちょっと暗い感じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●明るくて大胆な絵だと思ふ</li> <li>・いろいろな模様が使われている</li> <li>・大胆で力強い</li> <li>・小学校5年生がかいたみたい</li> <li>・色合いがいい</li> <li>・色の使い方もうまいと思ふ</li> <li>・もっと明るい色を使えばきれいになるのではないか</li> <li>・色はいいけど好きになれない</li> <li>・全体におもしろい、楽しい</li> <li>・素朴でかわいと思うけどなにがなんだか分からない</li> <li>・感じが重い</li> <li>・主題がわからないので好きとも嫌いとも言えない</li> <li>・何をかいたかわからない</li> <li>・大胆な絵だ</li> <li>・細かさがない</li> <li>・ふくざつで何となくいい</li> <li>・明るいのか暗いのかわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまいというよりのびのびして大胆な感じがした</li> <li>・ごちゃごちゃしてわかりにくい</li> <li>・全体に大きっぱ</li> <li>・絵が単純</li> <li>・いろいろなものがかいてあってよくわからない</li> <li>・色の使い方が大胆</li> <li>・原色をたくさん使っている</li> <li>・もっと明るい色を使えばよい</li> <li>・重いような感じがする</li> <li>・空想的な感じがする</li> <li>・にぎやかな絵である</li> <li>・意味がわからないので好きとも嫌いとも言えない</li> <li>・何をかいたかわからない</li> <li>・大胆な絵だ</li> <li>・細かさがない</li> <li>・ふくざつで何となくいい</li> <li>・明るいのか暗いのかわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごちゃごちゃしている</li> <li>・大まかな感じがする</li> <li>・とてもくどくどしい感じがする</li> <li>・細かいところがほとんどない</li> <li>・表現が強そうで冷たい</li> <li>・生々した感じが少ししか出ていない</li> <li>・色がこい</li> <li>・きたない色</li> <li>・くらい色ばかりで明るい色を使えばよくなる</li> <li>・色の組み合わせが好きではない</li> <li>・色の使い方がきらい</li> <li>・落ち付きがない</li> <li>・なにをかいているのかわからない</li> <li>・すぐくごちゃごちゃして意味がわからない</li> <li>・まとまりがあったらよい</li> <li>・構図がよくできている</li> <li>・明かるすぎて見にくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をかきたかったかつかめない</li> <li>・絵の意味がわからない</li> <li>・ごてごてした絵だと思った</li> <li>●ぎつっぽい</li> <li>・強い色、はつきりした色ばかり使っている</li> <li>・色の差が大胆すぎる</li> <li>・配色が悪い</li> <li>・不健康な感じがする</li> <li>・不安だ</li> <li>・重くて暗い</li> <li>・幻想的だ</li> <li>・リアルさがない</li> <li>・平面的な感じだ</li> <li>・絵がすごく単純だ</li> <li>・小さい子がかいたみたい</li> <li>・実際はこんなふうになっていない</li> <li>・暗くてもちが悪い</li> <li>●大きっぱ</li> </ul>

表5 4作品の記述内容

〈書かれた文章のままを掲載〉

●太丸は特に記述の多いもの

G・クルルベ

5	4	3	2	1
<ul style="list-style-type: none"> <li>●細かくてリアルだ</li> <li>・海や岩の感じがすばらしい</li> <li>・立体感がある</li> <li>●遠近感がある</li> <li>・静かで広々とした感じ</li> <li>・さわやかで感じがいい</li> <li>●素朴な感じ、平和である</li> <li>・明るくてきれい</li> <li>●その場にいるみたい</li> <li>●まるで写真のようだ</li> <li>・太陽がどこにあるかかげでわかる</li> <li>●こんなところへ行ってみたい</li> <li>・バランスがいい</li> <li>・まとまりがある</li> <li>・風景のよいところをかいいてきれいに見える</li> <li>・風景の絵は好きだ</li> <li>・とてもまい絵だと思ふ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠近感をはっきりしている</li> <li>・感じがいい</li> <li>・かたい感じがする</li> <li>・魅力的</li> <li>・静かですがすがしさを感ずる</li> <li>・自然のさわやかな様子</li> <li>・見ているはつらつとしてくる</li> <li>・人がいなくてさびしそう</li> <li>・岩が本物のように似ている</li> <li>・細かいところまで本物そっくり</li> <li>・写真かと思うほどうまくきれいに描かれていた</li> <li>・空が晴れているのかくもっているのかわからない</li> <li>●明るい感じがしている</li> <li>・静かな海と対照に雄大なせつべきをかいいている</li> <li>●海や空の色がいきいきしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりとしていないようだ</li> <li>●もっと岩みたいなものをするどくかいてほしい</li> <li>●だれも人がいなくてこわそうな感じがする</li> <li>・殺風景な感じがする</li> <li>・すこし重い感じがする</li> <li>・今にも雨が降りそわな気がする</li> <li>・写真みたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとまった感じ</li> <li>・雰囲気か暗い</li> <li>●さびしくつめたい</li> <li>・うまくて重い感じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくあるパターン</li> <li>・さびしい</li> <li>・気味が悪い</li> <li>・2/3が岩でおおわれている</li> <li>・こわい感じがする</li> </ul>

V・ゴッホ

5	4	3	2	1
<ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいにかけていてとてもまい</li> <li>・花がかれている様子がでている</li> <li>・色の使い方も魅力がある</li> <li>●大胆であざやか</li> <li>●とても明るい感じがした</li> <li>・いろいろな角度から見たひまわりがかいいてあるのがよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花1つ1つに特長がある</li> <li>・花の感じがよくわかる</li> <li>●とても細かくかいいてある</li> <li>・いきいきして明るく見えた</li> <li>・花がよく表わされていて楽しい絵だと思ふ</li> <li>・明るさがとても感じがいい</li> <li>・くらそうな花なんだけどなんかきれいな花に見える</li> <li>・目がまぶしいくらいあかるい花だった</li> <li>・色がいいが赤の花をもう少しふうすればとてもいい</li> <li>・青が入っているのがあまりよくない</li> <li>●あたたかな感じがする</li> <li>・ひまわりの大きさがちがっていい</li> <li>・花にもプライドがあるって感じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細かく明るい感じ</li> <li>・大胆でリアルな感じ</li> <li>・ふつうの花じゃないみたい</li> <li>・少しごちゃついてる感じがする</li> <li>・花がしおれている感じがとてもでている</li> <li>・花の形がよくない</li> <li>・影をつけるのもっとよかった</li> <li>・色がびみょうにちがうところがこつてている</li> <li>・配色が明るすぎる</li> <li>・オレンジ色がきれい</li> <li>・同じような色を使っているの全体的にぼやっとしてる</li> <li>●花の色があまりにもくらしい</li> <li>●きもちが悪い</li> <li>●花より花ビンの方が小さい</li> <li>・なんとなく立体感がない</li> <li>・バックも色も合っているけど花があたたかすぎる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ごちゃごちゃしている</li> <li>●花が生々していない</li> <li>・花のおぼけみたい</li> <li>・太陽に当たってない花のようだ</li> <li>・つほのまわりに黒い線が入っているのがいやだ</li> <li>・花がしぼんでいるからきもち悪く感じる</li> <li>●小さい子供がかいたようだ</li> <li>・こまかくかいいてないから好きじゃない</li> <li>・なにかいいかげんにかいているような感じがした</li> <li>●色のぬり方が大胆</li> <li>●オレンジ、赤の組み合わせがきもち悪い</li> <li>●色が濃すぎる</li> <li>●花の色が暗くて重い</li> <li>●少し重く感じる</li> <li>●明るすぎると思ふ</li> <li>●むりに絵を明るくしようとしているように感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かきかたがへた</li> <li>・全体にざつ</li> <li>・細くない</li> <li>・花がきれいにかけしていない</li> <li>・同じような色ばかり使っている</li> <li>・花の色がこすぎる</li> <li>・もう少し色がうすかったらまだいい</li> <li>・色の組み合わせがきたない</li> <li>・重い感じで暗い</li> <li>・花がおそいかかってきそう</li> <li>・きみわるい</li> <li>・明るいけど楽しくない</li> <li>・ばらばらでまとまりがない</li> <li>・ゴチャゴチャしている</li> <li>・あんなにもたくさんさいているはずがない</li> <li>・花びんもへた</li> <li>・花はすじじゃない</li> <li>・ひまわりがきらい</li> <li>・なんとなくきたない</li> </ul>

の主題が単純明快であること。すなわち誰にでも何が描いてあるかすぐにわかること。また日常生活感にあふれていること。描画方法も技術的に巧みで、自然主義的態度でしっかりと描いていること、ある程度細かい描写で細部も描き出していること。雰囲気として明るく、さわやかな感じがして、激しくなく穏やかであること、などがあげられる。

クールベの風景画については、細かくてリアル、その場にいるみたい、との現実感と描写法のうまさ、巧みさを高く評価している。雰囲気としては、ピサロと同様に静か、広々としている、など穏やかな雰囲気を受け入れ、自然の美しさに共感した態度に引かれているかのようである。

マチスの室内風景については、何よりもマチス芸術の本領たる大胆に平面化し、装飾的な色面と模様のパターンで構成した作品に対しても、自然主義的な絵画規準で眺めているかのようである。その平面化、装飾化されている点が最も受け入れにくい要因となっている。さらにこのような表現が、彼らにとっては主題の不明瞭さとなっている。すなわち室内風景らしいことは何とかわかるが、実際はあのようには見えない、色も強すぎ、模様は目立ってなじめないとしている。

ゴッホについては、まず表現方法が巧みでないこと、その大胆さは雑と感じている。雰囲気として、力強さ、激しさ、苦しさ、うねりを感じるのが好きになれない理由であり、主調色の赤、オレンジの色感が強烈であることと合わせて、重く、暗い気味悪い印象と受け止めている。

#### Ⅳ ま と め

今回調査した作品の中から、好悪の評定に極端な差の現れた4作品について、彼らの記述内容の検討を中心に作品への注目の仕方と、好悪の判断の根拠を探ってきた。それは同時に彼らの絵画に対する評価規準を明らかにすることで

もあった。もちろん作品に対する好悪の感情と美術的価値判断とは異なるものであるが、鑑賞者が中学生の場合、客観的な評価規準や観点など求めるべくもない。むしろ好悪の感情の中に鑑賞活動が展開され、美的内容が享受されてゆくものと思われる。したがって彼らの好悪の評定は、ほとんどそのまま作品評価と読み替えてさしつかえない。その意味では中学生の鑑賞活動は、比較的単純であり、また表面的であると言える。

本文中にも触れてきたが、絵画鑑賞の一般的傾向として次のことが明らかになった。

- ① 表現方法、雰囲気、色彩に対する注目度が極めて高い（全体の75.7%）
- ② 作品を良いと判断する美的要素は
  - 写実性の高さ（色彩、形に破綻がない）
  - 主題の明確さ
  - 描写の巧みさ
  - 雰囲気の穏やかさ、明るさ、楽しさ

①の傾向については、中学生一般の傾向と言うにはさらに調査を広げる必要はあろうが、鑑賞活動の初期段階における受動的な態度をよく表わしている。すなわち作品に現れた表面的様相に目が奪われ、その印象で作品評価を決定する傾向が非常に強いということである。作品鑑賞時、その作品が嫌い、良くないと評価した時その判断の時点で鑑賞活動は止ってしまい、作品との対話は進まず、鑑賞が深まらない結果となる場合が多い。特にこの様な場合、①の傾向は重要な事実として捉える必要がある。

②の作品評価の要因となった美的要素については、中学生が写実主義的表現に対する認識と関心が高まる時期にあるということが考えられる。すなわち記憶や想像で描いた絵ではなく、客観的に観察し、正確に再現された作品に対し強い関心が芽生える時期であり、またこの期を捉えて表現学習の目標にも写実的表現が取り上げられて来る。②の美的要素は、この学齢期の評価観をよく反映していると考えられる。しかし、もちろん写実的な表現だけが絵画の表現ではない。むしろ様々な表現形態の作品の享受や

図1 鑑賞作品図版Aグループ



図2 作品別5段階評定集計グラフ  
(各作品の数値は左から右へ好悪の程度の5・4・3・2・1を表わす)

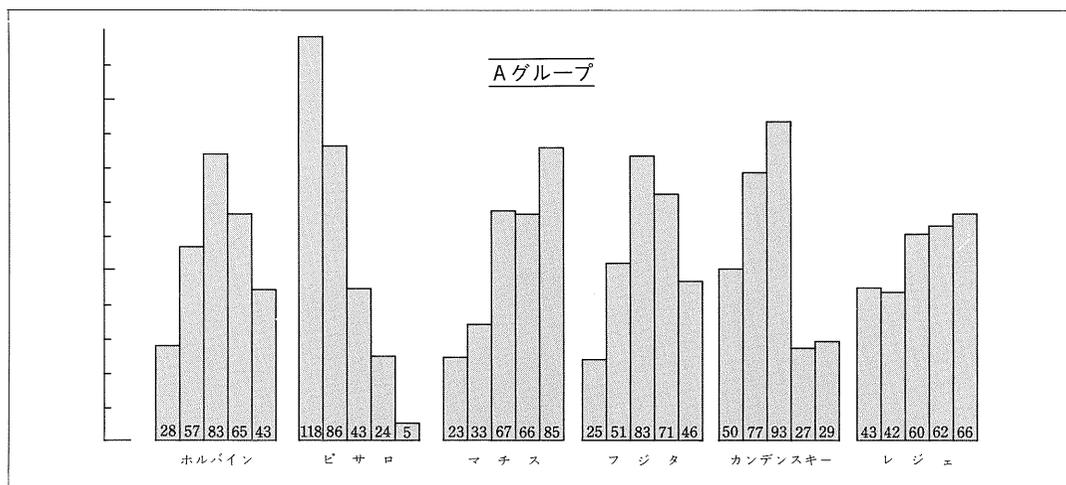


図1 鑑賞作品図版Bグループ

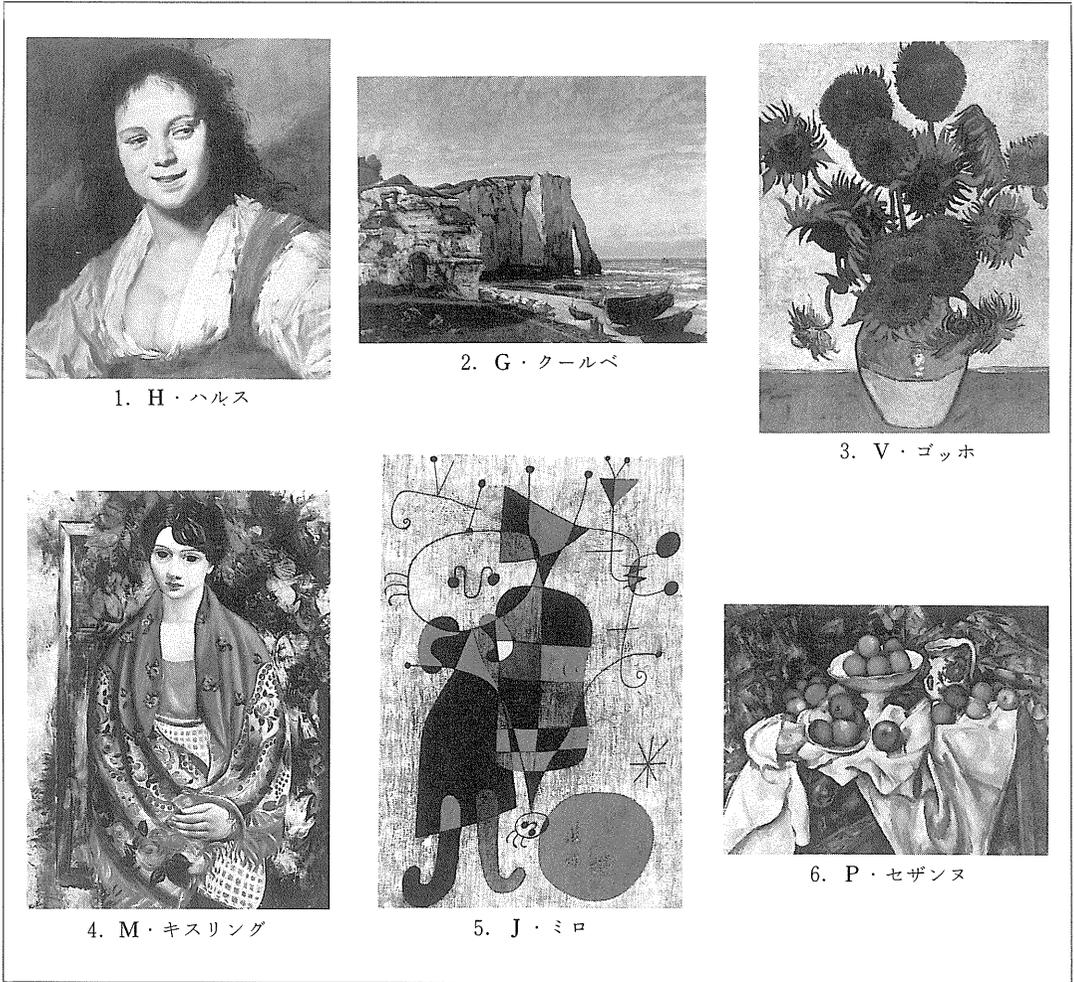
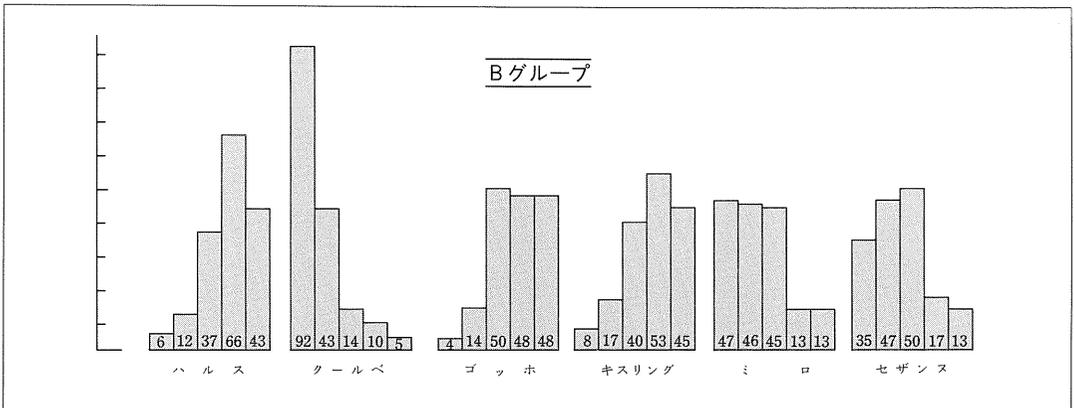


図2 作品別5段階評定集計グラフ  
 (各作品の数値は左から右へ好悪の程度の5・4・3・2・1を表わす)



表現と内容、主題との関連の必然性、多様ななどの理解は、鑑賞教育の重要な課題でもある。したがって今回の調査結果より①、②に現れた中学生の実態は、それ自身、鑑賞教育上の問題を内包した一傾向であると言うことができよう。鑑賞活動の一層の深まり、広がりを目指す指導の出発点として、この様な彼らの実態をさらに詳しく解明する為にも調査を続けてゆきたい。

今回調査した作品の残り8点についての記述内容の検討、ならびに鑑賞活動の構造の解明は後報の予定である。

この研究に関しては、東京学芸大学新井秀一郎教授に懇切なるご指導をいただいた。また実地調査に際しては中学校校長、美術科担当の先生方の協力があって実現したものである。ここ

に深く謝意を表します。

#### 注

- 1) 現行学習指導要領において、美術科の領域は表現と鑑賞の二領域に統合され、両者は互いに依存し、また補完して教育指導に当る方針が示された。
- 2) 文化女子大学研究紀要第14集 p. 7~8

#### 参 考 文 献

- 1) 鹿取武司：「中学校美術科における鑑賞教育(1)」、文化女子大学研究紀要第14集、1983
- 2) 鹿取武司：「中学校美術科における鑑賞教育(2)」文化女子大学研究紀要第16集、1985
- 3) 山本正男、他：「美術教育の方法」玉川大学出版部、1985
- 4) 那須田茂：「こどもの美術教育」造形社、1981